

中村支所管内より

女性部中村支部がパン作り教室

講師 ^{しのだ あんず} 篠田 杏さん

女性部中村支部の土居八栄さんが開く編み物教室で篠田さんと出会い、パン作りの話を聞いて土居さんが誘ったのがきっかけ。同支部はJAグリーン四万十店に出荷ができればとパン作りの教室を開きました。

篠田さんは高校生の頃からアルバイトでパン屋さんに勤めていました。卒業後もパン屋さんで働くほどのパン愛好家。結婚を機に四万十市へ。3人の子育てママでもあります。

6月15日のこの日は丸パン作り。部員11人が集まりました。参加した部員は「楽しかった。ふんわり焼けて嬉しい」や「作り方を見て作ると実際に作って教わるのと大違い！家でもできそう」と手応え充分でした。

また、篠田さんは家でのパン作り動画をYouTubeにアップしています。きっかけは「自宅でのパン作りは敬遠されがちですが、家でも子育て中でもパンが焼けるよと知ってほしいと思ったから」と話します。1番好きなパンは？の問いにたくさん悩んだ後、「食パンですかね。家ではチーズパンやあんパンもよく焼きますよ」と笑顔で話しました。YouTubeチャンネル「あんずキッチン」で検索してぜひご覧ください。



幡豆地区

から こんにはは 今月の〇〇 気になる人

サツマイモの植え付け楽しかったー！

愛育園、大用保育所のみなさん

6月26日、植え付けが終わり畑の中で、みんなで撮影した集合写真。収穫の時が楽しみです。約4カ月後、元気に育っているはず。園児のみなさんも同じように成長し力をつけ、収穫作業をたのしく土を掘ったりイモを引っこ抜いたり。ワイワイ収穫しましょう♪ 今から私達も楽しみです。



がんばれ〜と穴を掘っています。

見守り中



新採用職員のみなさんと一緒に植え付け。



また来るよ！



虫見つけた



西土佐支所管内より

制作楽しいっ！

女性部西土佐支部が手芸教室

女性部西土佐支部の皆さんが作っているのは涼しくてオシャレな帽子。『家の光』5月号に掲載の「エコアンダリヤで編む夏帽子」を活用し、6月30日に同支部に集まり制作開始。女性部の編み物教室で講師を務める岡山清見さんや事務局の新玉さんがアドバイスしながらかぎ針を使って編んでいました。

毛糸とは素材も違い編みにくい様子で、さらに通す穴など少しの間違いが後にも影響してきたり形が違っていたり。かぎ針未経験の私は何がどうなっているのか分からず皆さんの手の動きに見とれてしまいました。みんなで一緒に制作し時間を共有するこのステキな時間。部員同士で教え合ったり編み物に集中して取り組んでいる様子に皆さんが本当に楽しんでいることが伝わってきました。この日は2時間ほど行い後日また集まるそうです。出来上がりが楽しみです♪



雑草魂!?

西土佐支所管内で清掃作業中、砂利が敷いてある場所で職員が発見したそうです。草の根が石を穿つ!? という事ではなく、穴があったので入ったのでしょうか…。草のしたたかさを感じます。面白い写真をいただきました。

雑草の生命力には目を見張ります。マルチの少しの穴から生えていたり、大事な苗より元気かと思うほど。病気もせず立派に生え、放っておくと大変な事に。しかし、雑草魂に負けない心を持って除草作業を頑張らなければ！と強く思います。

西土佐支所管内より



できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



慎重に手植えをしています。

1 宿毛支所 子どもたちに田植え体験を 餅になるまでを学んで

宿毛市坂ノ下地区の「坂ノ下農地保全会」は6月7日、宿毛小学校6年生57人を招き田植え体験学習を行いました。同会の奥谷力郎さんが管理する田んぼを毎年使用し10年以上になりませんが、活動はそれ以前から行っているそう。

初めに、奥谷さんと幡西営農センター山脇辰斗指導員が苗の植え方や注意事項を説明。もち米の「サイワイモチ」を約5坪の田んぼに植え付けました。青壮年部幡西プロックも協力し、植える間隔に紐で印をつけて子どもたちの手助けをしました。

初めて田植えを体験する児童が多く子どもたちは恐る恐る田んぼに入りましたが、同部員や営農指導員らと一緒に、苗を片手に手作業で植え付けました。奥谷さんは「この苗が今後どうなっていくか、通りかかった時などいつでも見に来て」と呼びかけました。児童は「貴重な体験ができた。泥まみれになったけど、大変さや努力をされておいしいお米を食べることができると分かった」と感謝しました。秋には収穫体験、餅つきも予定しています。

2 幡多地区 運営委員会・地区座談会 各支所や出張所、事業所で開催



各会に参加し説明を聞く運営委員や組合員の皆さん。

幡多地区では6月5日から運営委員会を14カ所で開催しました。営業販売、購買、信用共済各事業が、令和4年度の事業報告や、令和5年度の事業計画について説明を行いました。また、今年2月に解散となったコスモスアグリサポートの清算見通しを報告。また、役員改選の手続き、店舗等の再編案についてなどの説明をしました。協議、報告の後は、令和5年度計画についての質問や建物の老朽化の問題など質疑応答が活発に行われました。JAは農家あってこそと、継続し農業者の所得増大へ取り組んでいくことを確認しました。

3 幡多地区 サツマイモができるまで 植え付けから体験



一生懸命に土を掘り植え付けしています。

地区本部企画組合員課では食農教育の一環として6月26日、園児を招待しサツマイモの植え付けを行いました。愛育園と大用保育所の4、5歳児合わせて25人が参加。JAからは今年度新採用職員が農業実習も兼ね、新人職員が参加しました。

子どもたちにサツマイモのツルを見せると「これがサツマイモ？」と驚いた反応でした。始めに宮川営農指導員が植え付け方を説明しそれぞれ職員と一緒に挑戦。手で土を掘り一生懸命に植え付けていました。愛育園では、成長途中をお散歩の時に見に来ますと話していました。10月ごろ、子どもたちと一緒に収穫する予定です。

4 中村支所 稲作について出前授業 生産者が生の声



生産者である尾崎さんの話に聞き入る児童の皆さん。

中村支所経済課は6月14日、中村小学校5年生に出前授業を行いました。JAグリーン四万十店がコメの消費を促すPRポスターの作製を依頼したところ、児童らが教科書で日本の稲作について学び、自分たちの地元の米農家に話を聞きたいと実現したもの。2人の生産者が児童らに土壌作りから米ができるまで、稲作で大事なこと、苦労や喜びなど体験談を交えて話をしました。JAは集荷した米の流通について話をしました。

その後、児童らは苗を間近で見ると触れたり、籾と玄米、白米を見比べ、籾を剥いてみたりと見慣れた白米との違いを観察しました。児童は「お米づくりの大変さが分かった。みんなに食べてもらえるようなポスターを作りたい」と話していました。

5 幡多地区 第11期女性大学はた小町 すてっぷあっぷコース開校



先生に習い姿勢をキープする受講生の皆さん。

女性大学はた小町は幡多地域に住む女性がJAをよりどころとして、明るく心豊かな仲間づくりを目的に、生活全般について毎回様々な内容で学習しています。今年度もすてっぷあっぷコースは全5回を予定し6月14日、開校式を行いました。1回目の講義は「ヨガ」。happy yogaの中山結衣さんを講師に迎え約90分間、ストレッチをしたり体をリラックスさせたりしました。終わった後はみなさん一同に、心も体もリフレッシュした様子でした。第2回は「終活講座とハスワーク」、第3回は「陶芸」、第4回目に和菓子作り、最後はお花で「クリスマスアレンジメント」を行う予定です。

6 三崎支所 シシトウ目慣らし会 現地検討会開催



等級基準を共有し出荷に備えます。(下)

三崎支所の露地部会シシトウ部会は収穫が本格化し6月21日、下ノ加江集出荷場に目慣らし会を開きました。等級に分けてパック詰めをする選果スタッフも参加し、等級規格の基準などを共有しました。

その後、栽培を始めて7年目の岡田應夫さんの圃場で現地検討会を行いました。4アールに3品種150本を栽培し、その中で高知県が取り組む「非辛みシシトウ」もあり、その性質や樹勢などを観察。幡西営農センター橋本誠指導員が本年度の栽培概要や既存品種と試験品種の栽培管理指導を行い、今後の管理について「今年は昨年と異なり、梅雨入りが早いことから病気の発生率が高くなる予想があるので、梅雨間の防除タイミングを逃さないように」と周知しました。同部会は21人で昨年は約24tを出荷。今年は25tを目標としています。

7 幡多地区 女性大学はた小町あぐりコース 野菜の育て方を学ぶ



円卓を囲み、和気あいあいとした雰囲気で行われました。

女性大学はた小町あぐりコースは実際に野菜を育てながら学びます。6月22日は寺尾営農指導員が栽培のポイントや水やり、追肥など品目別に詳しく解説。説明だけでなく、理由や事例についての話もありました。その後皆で畑に向かい、受講生それぞれが収穫したり指導員に質問をしたりしました。受講生から「キュウリが17本もとれた」と喜びの声も聞くことができました。

初心者（家庭菜園）向け

かぶ



栽培のポイント

- 適期に遅れずに間引き、品種にふさわしい十分な株間をあけて健全な株に育てましょう。
- 収穫が遅れて、スジが入ったり割れたりしないように注意しましょう。

●:種まき —:生育 ■:収穫

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作付け計画												

露地栽培

① 土作り

- 種まきの20日くらい前に石灰を施し、20cmほどの深さに耕しておきます。種まきの数日目に肥料を畑全面にばらまき、15cmの深さにもう一度耕します。

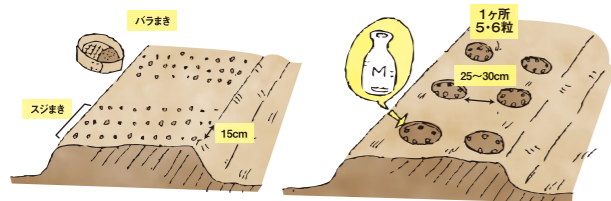
●《元肥 1㎡当り》

堆肥	5～6握り
油粕	大さじ5杯
千代田化成	大さじ5杯

② 種まき

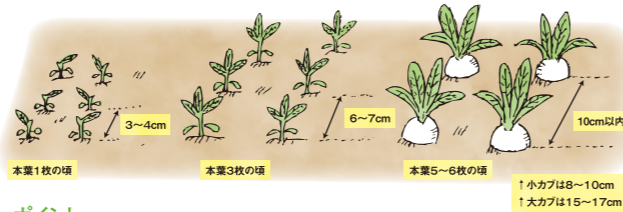
まく前に水をまいておく。

- 小カブは、株間15cmにとってスジ播きにするか、畝全面にタネ間1.5～2cm程度にばらまきします。
- 大カブは株同士の間隔を25～30cmにとって、1ヶ所5～6粒ずつ点播きにします。適当なビンの底などで、所定の間隔に播き穴をつけておくと綺麗に播くことができます。
- 覆土は、1cm程度にします。



③ 間引き

以下は、小カブの場合の例です。

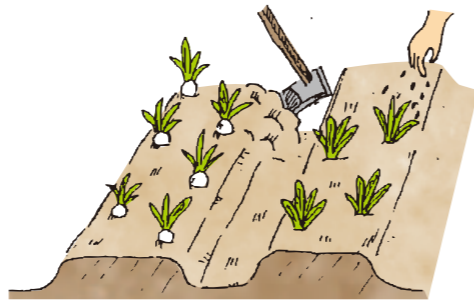


ポイント

- ★間引きは、つねに葉が大きく重なり合わないような間隔で。

④ 追肥・中耕

- 2回目、3回目の間引きの後に、追肥と土寄せを行います。追肥は溝の長さ1mあたり千代田化成大さじ2～3杯。



⑤ 収穫

若葉もおいしい。

- 収穫の目安は以下の通りです。

小カブ → 直径5～6cm
大カブ → 直径12～15cm



えいのう〜

■ 幡多農業振興センター 山下真司
連絡先 0880-34-7070

農薬の適正使用をお願いします

使用前には必ず登録内容を確認しましょう!

最近、高知県内で起こった農薬事故・不適正使用の事例

- ①希釈倍数の間違い
- ②登録のない作物への使用
- ③使用時期の間違い
- ④ドリフト
- ⑤魚類へい死（突然死のこと）

①～③は、容器に記載されているラベルを確認すれば、防ぐことができます。

適用病害虫と使用方法



散布時のドリフトに注意しましょう!

「ドリフト」とは、農薬散布時に防除対象の作物以外に農薬が飛散することをいいます。昨年度、県内でも水稲の除草剤（粒剤）を背負動力散布機を用いて散布したところ、近隣作物へドリフトし、作物の葉が黄化する事故が報告されています。

○ドリフト対策

- ①動力散布機のエンジンの回転数、風向き、風速に注意する。
- ②ジャンボ剤や豆粒剤などの飛散リスクの低い剤型の使用を検討する。
- ③細かすぎる散布粒子のノズルは使わない。

○周辺への配慮

- ①近隣作物の栽培者や住民に農薬散布を行うことを事前に知らせておく。
- ②遮蔽シートや障壁となる作物を導入する。
- ③近隣作物にも登録のある農薬を使用する。



魚毒性の強い農薬の取り扱いに注意しましょう!

昨年度、県内でも農薬を水路に廃棄したことによる魚のへい死事故が発生しています。魚のへい死事故は、農薬事故の中でも特に重大なため、今後このような事故が起こらないよう、取り扱いについて周知を図っています。

過去に事故があった薬剤例：ハチハチ乳剤・フロアブル、フォース粒剤、トレボン乳剤など（上記以外にも事故が起こりうる薬剤はありますので、ご使用の際には下記の注意点についてチェックをお願いします）

【農薬使用時の注意点】

- 絶対に水路（及び河川）に薬液を流入させない！（事故の大半はこれが原因）
- 散布中の液漏れ（特にホースや噴霧機の継ぎ手部分からの漏れ）が無いように気をつける。
- 複数ほ場がある場合、薬液タンクやホース、噴霧機等に農薬が入っていない状態で運搬する。
- 散布後の残液や、調整用スプーン、動噴、噴霧機、タンク、薬液ボトル等の洗浄液は、ほ場内又は特定の薬液処理場所に捨てる。（農薬を土で分解させる）
- 薬液ボトルの保管は、キャップをしっかりと閉め、鍵のかかるロッカーや箱で保管する。
- ※毒物・劇物の農薬を購入の際には判取り帳に住所・氏名・連絡先を記入のうえ、押印が必要です。

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

黄はだしまラソンを走った時のお土産の中にあった記憶があつて・・・このしは漬けだつたのか？今度買ってみようと思ひます。

（中村支所管内・58歳）
今月号（6月号）の「JAにこにこ市」しは漬けはとっても美味しいです。私もとくても気に入って食べています。

（大方支所管内・71歳）
▼6月号の「コチットのイチオシ」で女性部大方支部が手掛ける「しは漬け」を紹介しました。本当にいいですね！食べていて「あつミウガだ。これはナスだ」とちゃんと分かります。素材が生きていると実感できます。

夜須のエメラルドメロンフエスタに今年からはじめて主人と二人で行ってみようと思ひます。こうぐりをとってなかつたらこのフエスタのことを知らなかつたのでありがたかつたです。この企画を載せてくださりありがとうございます。

（三崎支所管内・63歳）
▼昨年も開催し大変好評だったイベントですね。今年も7月8日、9日にAGRI COLLETTTO（高知市北御座10-10）で行われました。園芸部会イベントで生産者が試食を勧めたり販売しアピールしました。

「輝け！新農人」では、科学的な農業日々の学習、そして家族の支えを感じます。目的意識を持たれ、自分が歩前に出る。同志と共に研さんしている様子が伺えました。20年間勤めた会社の経験が今、努力されている農業に活かされているのではないかと思います。

（中村支所管内・75歳）

▼熟練の生産者がハウスを見に来てアドバイスをくれたり、自身も他の生産者のハウスを見学したり。品種を同じくする生産者同士のつながりの良さを感じました。新規就農者にとって、相談できたり、経験や情報を教えてもらうことは本当にありがたいですよ。

介護をしている母のリハビリにと毎年家庭菜園で野菜を植えているのですが、なかなか思ったようにはできません。ですからえいのうページをふやしてもらって色々学びたいと思ひています。

（中村支所管内・57歳）
いつも初心者（家庭菜園）向けを真っ先に読みます。園芸用ノートにも貼りつけ大切にしています。

（西土佐支所管内・66歳）
毎月楽しみに待っています。少しずつ季節の野菜に挑戦していますので、野菜作りのページ助かります。これからも皆さん頑張ってくださいね。

（三原出張所管内・82歳）
▼初心者向け家庭菜園のコーナーをいつもご利用くださりありがとうございます。掲載が月に1種類ずつで大変申し訳ありません。畑準備の段階から載せ、季節に合った野菜にしようと思ひがけられています。



JA高知県 中村支所〔信用課〕〔共済課〕 店舗移転オープンのお知らせ

令和5年10月2日(月)

いつも中村支所の信用・共済窓口をご利用いただきありがとうございます。
この度、中村支所の信用課・共済課は四万十市総合文化センター〔しまんとびあ〕1階に店舗移転し装いも新たに生まれ変わります。



〔店内イメージ〕

〔ATMコーナー〕

ATM（現金自動受払機）を増設

ATMを2台にすることで利便性が大幅に向上！



四万十市総合文化センター〔しまんとびあ〕イメージ
2024 GRAND OPEN



【お詫びと訂正】

広報誌7月号の掲載内容について、次のとおり誤りがありました。
下記の通り訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

11ページ「幡多地区からこんにちは」上段
「夫婦二人三脚のシトウ」の田村 鶴喜（たむら つるき）さんは、つるきさんではなく「たむら たつき」さんです。